

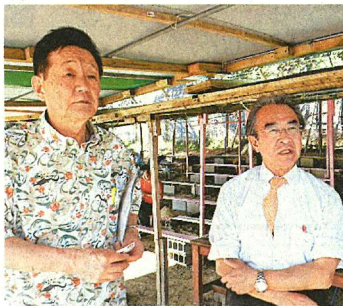
「政府の姿勢に憤り」

辺野古 国会議員が視察

名護市辺野古の新基地建設を巡り、野党超党派の国会議員でつくる「沖縄等米軍基地問題議員懇談会」会長の近藤昭一衆院議員と会長代行の藤田幸久参院議員が26日、米軍キャンプ・シユワブの建設現場を視察した。この日は石材を積んだトラックなど137台が基地に入り、搬入を阻止しようとする市民が機動隊に排除された。

両議員は米側の案内で、大浦湾側の砂浜や辺野古崎突端近くの「N3」護岸周辺を歩いた。近藤氏は「現

場に来て改めて、軟弱地盤など重要なことを隠しながら進めているという違和感を覚えた」と指摘。藤田氏は「視察の許可がなかなか



報道陣の質問に答える近藤昭一氏(右)と藤田幸久氏。26日、名護市辺野古の米軍キャンプ・シユワブゲート前

下りず、写真撮影も許されなかった。日本の予算で建設する施設なのに、国会議員が視察することに消極的な政府の姿勢に憤っている」と話した。

ゲート前にはイスラエルの元兵士で、脱原発と平和を訴える市民グループ「原発とめよう秩父人」(埼玉

県)を設立したダニー・ネフセタイさん(61)と妻の吉川かほるさん(60)も訪れた。ネフセタイさんは「住民の声を無視したやりたい放題の状況は、イスラエルのパレスチナ支配と似ている」と批判した。